

地域の防火・防災だより

青葉

AOBA

地域とともに、安全と安心を守り続けるために 一カメイ株式会社の防火・防災の取り組み

カメイ株式会社 管理部長 遠藤 忠章

カメイ株式会社は、エネルギー・食料・建設・自動車・ヘルスケアなど、幅広い事業を通じ、地域社会の暮らしに寄り添い、多様な価値を提供する総合商社です。なかでもエネルギー事業は、石油などの危険物を取り扱うため、防火・防災への高い意識と確実な対応力が求められます。当社のガソリンスタンドや油槽所では日々の安全管理を最優先に据えており、法令に基づいた設備点検・訓練を定期的実施しています。

塩釜市にある当社の塩釜貞山油槽所は、2025年10月に宮城県が主催した「石油コンビナート等防災訓練」の会場事業所として訓練の中心的な役割を担いました。この訓練は、石油コンビナート地区の関係企業が持ち回りで行うもので、1980年の開始以来、今年で45回を数える歴史ある取り組みです。仙台市消防局をはじめ、宮城県警察、陸上自衛隊、地域消防団、近隣事業所など計12機関・約150名が参加し、地震による危険物漏えいを想定した初期消火・通報・避難誘導など一連の対応を実践的に確認しました。官民一体での防災対応体制を検証する貴重な機会となりました。

このような現場レベルでの取り組みに加え、社員一人一人の防災意識向上にも努めています。防災安全協会青葉地区と青葉消防署が実施する消防技術研修会など、外部機関が主催する防災研修にも積極的に参加し、消火器の取り扱いや救命講習などを通して初動対応力を養っています。

全社的な防災体制の強化にも力を入れています。災害時の初動対応マニュアルを作成して全社員に配布し、安全確保を最優先とする行動基準や、避難経路・緊急連絡先の確認手順を明文化しました。

また、安否確認システムを導入し、災害発生時にはメールやアプリを通じて全社員の安否を迅速に把握できる体制を構築。定期的なテスト送信や運用確認を行うほか、防災備蓄品の点検・補充や災害時行動基準の見直しを重ね、緊急時の事業継続体制の強化に取り組んでいます。

各支店・営業所では、避難経路や初期消火の手順を確認する避難訓練・消火訓練を実施し、事業所ごとに避難場所や災害時の確認担当者を明確に決めました。

デジタルと紙の両面から、社員の行動指針と連絡体制を整えることで、実効性のある防災体制の確立を目指しています。

東日本大震災から15年を迎える今でも、当時の経験は当社の防災方針に深く刻まれています。震災直後には、燃料供給の途絶が社会生活に直結することを痛感し、以来「地域とともに備える」という考えのもと、物流ルートや備蓄拠点の強化を継続してきました。震災を機に一部拠点で整備した「災害対応型SS（サービスステーション）」も、地域の燃料供給を支える重要な基盤の一つとなっています。

2018年には宮城県および損害保険ジャパン日本興亜株式会社（現・損害保険ジャパン株式会社）と締結した防災に関する三者協定を基盤に、これまで継続的に行政や関係機関との連携を深めてきました。防災は一企業だけで完結するものではありません。行政・消防機関・地域社会と連携し、平時から情報共有を行うことで、いざという時に確実に機能する関係づくりを進めています。今後も「安全は事業の基盤である」という考えのもと、社員・地域・社会の安心を守り続けてまいります。



カメイ株式会社 塩釜貞山油槽所



石油コンビナート等防災訓練の様子



整備された災害時行動マニュアル